



2009年9月

# さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編集委員会

## 心臓カテーテル検査について

名古屋共立病院 循環器内科 田中美穂

暑い日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

名古屋共立病院 循環器内科の田中と申します。

循環器内科では主に心疾患、動脈疾患（閉塞性動脈硬化症など）の診断・治療に携わっています。なかでも当院では虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）に力を入れています。

心臓は1日に約10万回、休むことなく拍動し、全身に血液を送るポンプの役割を担っています。この心臓自身にも栄養が巡ってこないと心臓は働くことができないため、心臓に栄養を送る血管（冠動脈）が心臓の表面を包み込むように走って、心臓の筋肉に入り込んで栄養を送っています。

虚血性心疾患とは、この冠動脈が動脈硬化などにより細くなったり、詰まってしまう病気です。血の塊などによって冠動脈が突然詰まってしまうのが急性心筋梗塞で、3～4人に1人は亡くなってしまおうという極めて死亡率の高い怖い病気です。急性心筋梗塞の場合は、1分1秒を争う治療が必要になるため、当院では24時間、365日、循環器科の医師が待機して対応しております。

高血圧、高脂血症、糖尿病、喫煙と並んで、透析をしている患者さまでは心臓病、虚血性心疾患の危険性が高まります。日本の死因統計をみますと、悪性新生物が28.5%で1位、脳血管障害が15.9%で2位、心臓病が3位で15.1%です。この心疾患の60.8%が虚血性心疾患です。同じ年の透析患者の死因に関する日本透析医学会の報告をみますと、悪性新生物は7.2%、脳血管障害は13.5%で心臓病は実に32.9%（心不全＋心筋梗塞）に達し、透析をしている方の死因でいかに心臓病が多いかがわかります。

